

「世界の作文教育」

本書は、野地潤家先生をはじめとして、奥田邦男、奥田久子、森田信義、木下紀美子、大嶽和夫、北岡清道、小田迪夫、白石寿文、中西一弘、浜本純逸、藤原和好、南本義一、中洲正鶴、足立茂美の諸氏が共同で十数年間積み上げられた、比較国語教育研究の成果を集めたものである。「世界各国の国語教育の中の作文教育への視野を確保しつつ、わが国の作文教育への省察と考究とを、いっそう的確で周到なものにしていきたい」（まえがき）というねらいにもとづいて、アメリカ・イギリス・ドイツ（南独・西独）・フランス・ソビエト・中国の六カ国の作文教育がとりあげられ、それぞれの実態と特質が明らかにされている。

本書の内容は、次のように構成されている。

第1章 アメリカの作文教育

はじめに—課題の所在と今までの研究—
I 概観 II 実態 1、国語科における位

置・構造 2、目的・目標・意義
3、学習指導要領、カリキュラム・ガイド
4、授業計画 5、授業過程 6、評価

III 考察

第2章 イギリスの作文教育（以下各章同じ）
第3章 ドイツの作文教育（項目）

その1ドイツ民主共和国（東独）の作文教育
その2ドイツ連邦共和国（西独）の作文教育

第4章 フランスの作文教育

第5章 ソ連の作文教育

第6章 中国の作文教育

I 概観 II 実態 1、国語科における位置
2、思想政治教育と作文教育 3、カリキュラム（教材綱要） 4、授業計画 5、

授業過程 6、評価—台湾のばあい—1、

国語科の概要と作文教育の目標 2、国語科における位置 3、作文教育のカリキュ

ラム 4、指導方法・指導過程 5、授業

過程 6、評価 III 考察

第7章 日本の作文教育

おわりに—まとめと今後の課題—

比較教育研究法については、本書の「おわりに」で、「地域研究」（一國ないし一地域を対象とする）と「比較研究」（多くの国々ないし地域をとり扱う）とがあげられ、前者では「記述」と「解釈」、後者では「並置」と「比較」が主な作業となることが示されている。日本をのぞく六カ国の作文教育研究については、その実態記述にもとづいて、解釈も加えられている。さらに、比較が成り立つように、並置にも細密な配慮がなされている。「このたびの研究は、比較作文教育研究のための地固めであり、基礎作業にもとづく『地域・比較』研究の中間報告である。』（おわりに）とのべられているが、その基礎作業をおして、比較国語教育研究法の樹立がなされていることがわかる。

（文化評論出版刊、昭和49年2月10日、A5

判四九四ページ、三二〇〇円）

（広瀬節夫）